



第47号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

五年目の春 ～新たなる始まり～



昨年のこのページで新校舎完成の報告をさせていただいたが、その後もその他の工事が続き、ようやく学校がもとの姿に戻ろうとしている。

一昨年八月の新校舎完成に続けてすすめられた、第二棟と第一棟の耐震補強工事が間もなく終了する。工事は最終段階に入り、震災後から仮設校舎が建てられ、その後も臨時の駐輪場や工事の資材置き場として利用されたテニスコートが五年ぶりに復活した。生徒昇降口前もアスファルト舗装され、ここにも簡易のテニスコート一面が整備された。

八月二九・三〇日に行われた梅苑祭は新校舎を使用しての初めての一般公開となり、多くの来場者で賑わった。これまでよりも広めの教室、木の温もりを感じる廊下や階段、窓からの眺望など、新しい福島高校を肌で感じていただけたようである。

一昨年二月、太宰府天満宮から恵与され

た五本の梅の若木も、しっかりと福島高校の地に根付き、春には五種類の美しい花を開かせた。
あれから五年、ようやくもとの姿に戻ろうとしている福島高校、これからの新たな始まりに期待したい。

『同窓会WEBサイト開設にあたり』

この度、同窓会「梅苑会」のWEBサイトを開設することとなりました。同窓会関係のWEBサイトとしては、既に関東梅苑会とみやぎ梅苑会が開設されており、それぞれの地域で同窓生の情報を発信し、多くの同窓生が利用されています。

福島高校関連では、Facebookに「福島県立福島高校」のページがあり、WEBサイト開設の前段階として「梅苑会」のページも既に立ち上げ、多くの同窓生の方々に登録いただ

いております。

このサイトが、世代を超え、様々な分野で活躍されている同窓生の情報交換の場として、さらに福島を取り巻く状況など、

『生きた情報』発信の一助となればと考えております。

今後、担当者が同窓生の方々に訪問・取材し、記事を掲載していきたいと考えております。

各梅苑会のサイトは次の通りです。

福島高校同窓会 <http://www.baienkaikai.org>
関東梅苑会 <http://www.kantobaienkaikai.ne.jp/>
みやぎ梅苑会 <http://www.geocities.jp/miyagibai/>

情報発信に協力いただける方は、下記担当までご一報ください。
WEB担当：株MC47WEBサービス
板垣隆 mail: takashi01@mc47.com

column

『志乃夫草』しのぶ草 続報

昨年もこのコーナーで紹介したように校友会誌（生徒会誌）『志乃夫草』のデータ化が、前回までに完成していた第8号、第45号に第1号、第6号を加え、DVD版・ブルーレイ版で制作し完成する事が出来ました。さっそく昨年度同窓会に購入していただいた耐火金庫に保存いたしました。

データ化は、前回同様福島映像企画にお預けし、残す欠本は、第7号のみとなりました。再度同窓会や周りの方々に声をかけていただき、是非探し出していただければと思います。

同窓生 吉井忠先生 絵画作品の 保護について

本校正面玄関に掲げられている、主体美術協会創設会員である吉井忠先生（中24回卒）の作品「石のある村（金谷川）」（第5代同窓会長齋藤兆昇氏寄贈）に、福島県立美術館学芸課長の伊藤さんからアドバイスをいただき、アクリルガラスを額に入れました。これで当面日光から保護する事が出来ます。

第7号を
お持ちの方は
いませんか？



作品保護
をし、展示
しています



写真提供：高橋泰洋氏



平成28年度予算書 (27年9月1日～28年8月31日)

平成28年度 一般会計予算書

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,394,792	
(2)入会金	945,000	卒業生 (315名×3,000円)
(3)年会費	2,915,000	卒業生 (315名×1,000円) 会員 (約1,300名×2,000円)
(4)雑収入	100,000	利息、寄付金等
(5)繰入金	0	
合 計	6,354,792	
2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
1.事業費	3,580,000	
(1)総会費	600,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	855,000	
(1)会議費	250,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	5,000	振り込み手数料他
(3)交際費	150,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員経別、その他
(4)慶弔費	100,000	切手、書害代
(5)通信費	50,000	
(6)旅 費	250,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑 費	50,000	
3.会員名簿管理費	710,000	平成27年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,209,792	
合 計	6,354,792	

項目間の流用をお認め願います。

平成28年度 母校後援会費予算書

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	9,868,082	
(2)会費	1,500,000	卒業生 (315名×1,000円)、会員 (約750名)
(3)雑収入	1,500	利子等
合 計	11,369,582	
2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,000,000	母校への助成
(2)部活動助成	700,000	全国大会出場部への助成金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)予備費	9,169,582	
合 計	11,369,582	

項目間の流用をお認め願います。

平成28年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書(特別会計)

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,698,226	
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より
(3)雑収入	350	利子等
合 計	3,198,576	
2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2)次期繰越金	3,198,576	
合 計	3,198,576	

平成28年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計予算書

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,384,994	
(2)同窓会梅基金	1,000,000	同窓会梅基金より
(3)雑収入	50	利息、寄付金等
合 計	2,385,044	
2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)飛び梅接待関係	600,000	交際費、接待費、諸経費等
(2)飛び梅管理費	40,000	肥料・消毒代等
(3)予備費	1,745,044	
合 計	2,385,044	

項目間の流用をお認め願います。

平成27年度決算書 (26年9月1日～27年8月31日)

平成27年度 一般会計決算書

収入決算額・・・7,090,185円	支出決算額・・・4,695,393円	次年度へ繰越額・・・2,394,792円	
1.収入の部			
(単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,467,938	2,467,938	
(2)入会金	945,000	954,000	卒業生 (318名×3,000円)
(3)年会費	3,330,000	3,408,000	卒業生(318名×1,000円) 会員(1,123名)
(4)雑収入	100,000	260,247	オリジナルタオル売り上げ、 旅費返金、利息等
(5)繰入金	0	0	
合 計	6,842,938	7,090,185	
2.支出の部			
(単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,430,000	3,511,241	
(1)総会費	550,000	596,325	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,500,000	2,633,936	梅苑会報印刷、郵送代、番付用紙
(3)母校後援費	280,000	280,980	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	810,000	482,152	
(1)会議費	200,000	226,533	H26年第2回、H27年第1回役員会
(2)事務諸費	10,000	4,876	振り込み手数料、タオル配送料
(3)交際費	150,000	83,240	関東・みやぎ梅苑会参加費、転出者経別
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	50,000	26,023	往復葉書、切手
(6)旅 費	250,000	141,480	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.会員名簿管理費	800,000	702,000	平成26年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,802,938	0	
合 計	6,842,938	4,695,393	

平成27年度 母校後援会費決算書

収入決算額・・・11,829,585円 支出決算額・・・1,961,503円 次年度へ繰越額・・・9,868,082円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	10,371,049	10,371,049	
(2)会費	1,900,000	1,457,000	卒業生 (318名×1,000円) 会員 (753名)
(3)雑収入	2,042	1,536	利息
合 計	12,273,091	11,829,585	

(単位:円)

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	684,699	部会主催、オリジナルタオル・ファイル等
(2)部活動助成	300,000	776,804	全国大会出場助成等
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	
(4)太宰府梅基金助成	200,000	0	
(5)予備費	10,073,091	0	
合 計	12,273,091	1,961,503	

平成27年度 福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書(特別会計)

収入決算額…2,698,226円 支出決算額…0円 次年度へ繰越額…2,698,226円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	備	要
(1)繰越金	2,197,881	2,197,881		
(2)積立金	500,000	500,000	27年度分	
(3)雑収入	250	345	預金利息	
合 計	2,698,131	2,698,226		

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	備	要
(1)修繕費	0	0	梅苑会館修繕費	
合 計	0	0		

平成27年度 県立福島高校同窓会太宰府梅基金会計決算書

収入決算額・・・1,532,433円 支出決算額・・・147,439円 次年度へ繰越額・・・1,384,994円

1.収入の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	備 考
(1)繰越金	389,384	389,384	
(2)積立金	200,000	0	同窓会後援会より
(3)同窓会梅基金	0	1,143,000	同窓会会員 (739名)
(4)雑収入	100,000	49	利息
合 計	599,384	1,532,433	

2.支出の部 (単位:円)

項目	予算額	決算額	備 考
(1)飛び梅接待関係	20,000	142,039	旅費、接待費、諸経費
(2)飛び梅管理費	70,000	5,400	消毒代
(3)予備費	509,384	0	
合 計	599,384	147,439	

このたび、川崎眞二前会長のご退任により、今年1月30日の臨時役員会において、はからずも福島高等学校同窓会会長に選任されました。

長い歴史と伝統のある福島高等学校同窓会の会長職は身に余る重責であり、重圧を感じていますが、関係各位のご支援、ご協力をいただきながら何とか職責を果たしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

福島高等学校同窓会は、川崎前会長のすばらしいリーダーシップのもと、年々会員相互の親睦を深めながら活発な活動を展開して参りました。

とくに一昨年、縁あって太宰府天満宮から5本の梅を恵与賜ったことは、誠に意義深い行事であったと思います。2月28



同窓会会長
渡辺 健寿
(高校第17回卒)

「新任ごあいさつ」

日の植樹式の後、26年秋、27年春、秋には太宰府天満宮から造園士の方にお出でいただき、梅の木の手入れ、管理等をしていただきました。まさに梅高福島高校のシンボルとして大切に育てながら、太宰府天満宮との交流を続けて参りたいと存じます。

先の総会において「太宰府梅基金」の設立および今年度の予算をご承認いただきましたので、太宰府梅基金を活用しながら交流の実を挙げていきたいと考えております。今年2月11日から13日にかけて本校から太宰府天満宮へお礼参りとして参上し、本校にちなんで命名された梅「福高の晩」の若木を献上いたしました。「福高の晩」が本校と太宰府天満宮とを結ぶかけ橋として太宰府天満宮の境内に大きく育つことを楽しみにしています。

また、梅苑会ホームページの立ち上げについてもご承認いただきました。今年2月から運用を開始しましたが、同窓会からの情報発信、会員相互の情報共有をきめ細やかに進めていきたいと考えております。

川崎前会長が同窓会の関係強化、会員増強のため常々提唱されておられたのが、同期生のグループに加え、職域からのグループ、部活OBからのグループなど、縦・横・斜めの糸を織り込み強固な組織にするということです。この点は、私としても川崎前会長のご意向を引き継いで実践していきたいと決意しているところです。

関係各位のご支援、ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

福高 同窓会総会

平成27年度「福高同窓会総会」が11月27日(金)18時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って佐藤祥一氏(高校第21回卒)による、「物書き春吉の文字にならない」「裏話」のいろいろ」と題した記念講演がありました。佐藤氏は春吉吾吾のペンネームで春・夏・秋・冬の長編時代小説「四季四部作」を執筆され、平成26年には幕末福島藩を舞台にした四部作の第二作「春のみなも」上・下を上梓されました。現在も福島・伊達・月館などにまつわる長編・中編小説を取材執筆中で、その完成が待たれるところです。

総会では、昨年承認され今年創設された「太宰府梅基金」の報告、同窓会のホー



ムページの立ち上げなどが承認されました。また、同窓会会長川崎眞二氏が諸事情により急遽退任されることになり、一月の臨時役員会での後任会長の指名を持って新会長を選出することが承認されました。1月30日の臨時役員会において、同副会長の渡辺健寿氏(高17回)が新会長に選出されました。川崎前会長のこれまでの同窓会発展への御尽力に心から感謝申し上げるとともに、渡辺新会長の下での同窓会のますますの発展をめざしていきたいと思っております。

次年度の福高同窓会総会は、平成28年11月25日(金)18時から、福島グリーンパレスで行われます。会員の皆様のご参加をお待ちしております。なお、チケットに関しては、同窓会事務局までお問い合わせください。



ワールドカップ日本代表の活躍で人気が高まるラグビー。福高から早大で活躍し、現在「釜石シーウェイブス」（宮城県釜石市）でプレーする菅野朋幸さん（高55回卒）に、今年の抱負と復興への思いをうかがった。

W杯ラグビーは釜石で開催 東北復興を世界に発信

仕事との両立と
地域共生がチームの魅力

選手として「釜石シーウェイブスRFC」でのプレーを選んだ理由は？

新日本製鉄（現新日鉄住金）釜石製鉄所でしっかりと仕事をし、ラグビーと両立させてもらいながら、歴史あるチームでプレーしたかったことが理由です。釜石シーウェイブスの前身は、「新日鉄釜石」という日本選手権で7連覇した強豪チームで、2001年にクラブチームとして設立され、本格的な再出発を図っていました。なにより従来型の企業スポーツではなく、地域共生型のクラブチームとして運営する新しい取り組みが魅力でした。全国でも初めてとなるクラブチームでのトップリーグ昇格を目指して、今年も精一杯チャレンジしたいと考えています。

今シーズンのチームの成績はいかがでしたか？

トップイーストでは8勝1敗で2位通過し、トップリーグ昇格に向けたトップチャレンジ2に進出しましたが2位に終わり、前年に続くトップチャレンジ1への進出ならず敗退という残念な結果になりました。個人



釜石シーウェイブスRFC所属
新日鉄住金 釜石製鉄所勤務
菅野 朋幸さん（高55回卒）

Profile

1984年（昭和59年）生まれ。本宮市立白沢中学ではサッカー部のキャプテンを務め、2000年に入学した福高でラグビーに出会う。全国高校ラグビー大会は1年、2年が準優勝、主将だった3年はベスト4と惜しくも花園出場ならず。2003年、早稲田大学人間科学部入学。大学3年次のシーズンからウィングとしてレギュラーに定着し、その後、関東大学ラグビー対抗戦優勝2回、大学選手権優勝、同率優勝。2007年、新日本製鉄（現新日鉄住金）に入社し、ラグビートップイーストのクラブチーム「釜石シーウェイブス」に所属。2014年には選手会長として、チームのトップチャレンジ出場とトップリーグ入替戦出場。2015年から選手兼任アナリストを務める。31歳。

ばれた母材を圧延加工し、線材と呼ばれる製品を生産することが主な役割となります。私はその製品の「出荷総括」という業務を受け持っており、主にタイヤメーカーや自動車メーカー等のお客様に対して、船やトラックで出荷する計画を立てたり、調整したりしています。

2011年3月の東日本大震災の時は？

釜石製鉄所で勤務中でした。当時は総務部で経理の業務を行っていましたが、震災直後は社員と家族の安否確認とその支援、また、本社はじめ全国の製鉄所などから送っていただいた救援物資の仕分けと管理に追われました。水道、電気、ガスのすべてが供給停止していたので、家族（奥様と当時1歳の長女）

関東梅苑会だより

3回目の「福島フェス」 復興に賭ける同窓生の思い



2015年10月10日・11日、六本木ヒルズアリーナで3回目になる福島フェス2015が開催され、フード系12店、物販系16店、ワークショップ1店が出店し、13組の出演アーティストがパフォーマンスを披露。生憎の天気の中、2日間で約2万人が来場し大盛況を収めました。このイベントの企画・運営は、高48回（平成8年）卒の8名の元福高生が中心となっています。リーダー役の島永泰之さんにお話を伺いました。

「そもそもなぜか？」

「福島フェス」の企画・運営の母体は島永さんが代表を務めるNPO法人b.c.c.がベースになっています。日々、デザインやメディアの仕事に追われる中、「福島の高さをもっと広く伝えたい」「福島をかつよく見せたい」という思いが募り、2012年4月にNPOを設立。本業の仕事をこなしながら故郷のための事業展開を試行錯誤しているさなかに、あの3・11の大震災が起き、そして原発問題に直面したと言います。

第1回目「ミラフェス」開催

2013年7月、代々木公園を会場として例年行われていたイベント「アースガーデン夏」に参加。このイベントの一角を借りて「福島フェス・ミニ」を立ち上げ、その運営をすることになりました。「アースガーデン夏」の主催者は震災後、福島の復興に取り組みしており、福島フェスのメンバーの想いに共感して福島フェス・ミニが実現しました。また、風評被害対策の一環として県の後押しもありました。人が多く集まる場所でも自分たちが本気で良いと思う福島の農産物や物産品をPRすることが一番の目的でした。

確かに、震災が起きて直ぐに、マスコミやネット上で福島県産の農産物・水産物、あらゆる生産物

のことが一緒に取り上げられ、今でも風評被害が止まないことは悲しいことです。

「フェスへの強い思い」

福島からフード・物産品など合計19店が出店した「福島フェス・ミニ」が無事終わりました。様々な形で連携し運営してきた高48回のメンバーが話し合い、次の年（2014年）は単独でイベントを開催することを決め、仲間の伝手で六本木ヒルズアリーナが借りられることになりました。

イベントに来る人のわくわく感や福島からの出店者やメディアへのインパクト、集まる客層を考え、お台場でも有楽町でもなく、六本木でやりたい、というメンバーの強い思いが一致したそうです。

単独開催なので、後援やスポンサーを募り、FB立ち上げやポスター、チラシの作成などの準備は大変でしたが、福島から合計22店が出店し、第2回目となる「福島



そして次回

こうして島永さんを中心とした高48回の仲間たちの協力と大変な苦労によって、3回の福島フェスが成功裏に執り行われてきました。しかし、メンバーにはそれぞれ本業があり、通常業務で忙しく働きのながら3回のイベントに携わっています。それでも第4回となる福島フェス2016の開催も予定しているとのこと。もし開催されることになったら、是非参加して都会の中で、故郷福島を感じてみてください！



福島フェス2015実行委員の高48回のメンバー。左から2番目がRAG FAIRの引地洋輔さん、左から3番目が島永泰之さん。



平成27年度みやぎ梅苑会総会が9月17日仙台市青葉区のハーネル仙台にて開催された。仕事の都合や昨年に続き生憎の雨模様となった事もあってか直前の欠席連絡が多かったものの会員約60名が集った。

みやぎ梅苑会総会・懇親会開催 Ⅱ役員改選・全役員留任Ⅱ

みやぎ梅苑会だより

物故会員に黙祷を捧げた後、鈴木征夫会長（高12回）が「母校はいつまでたっても懐かしうあがり存在、同窓会を盛り上げ母校を応援して行きたい」と挨拶し議長席に着いた。

総会は議案として①平成26年度事業報告・会計報告及び監査報告、②平成27年度事業計画案・予算案、③役員改選（鈴木会長以下全員留任）が審議され何れも満場一致で承認された。

恒例の懇親会は母校より田代公啓校長、同窓会本部より川崎眞二会長・今関達也事務局長・西山伸一事務局次長、後援会より黒森陽一会長、関東梅苑会より戸松哲男副会長を来賓にお迎えし開会した。

挨拶に立たれた川崎眞二会長から「在校生の文武両面における目覚ましい活動状況や同窓会としての応援」について、田代公啓校長からは、新校舎での授業開始、SSH生徒研究会発表会での最高賞の受賞、陸上、アーチェリー・剣道・ソフトテニス・

チアリーダー等の活躍や梅苑祭の活躍など生徒の文武両面での活躍の紹介があり「生徒達の頑張りが学校を引っ張ってくれている」と挨拶いただいた。

各来賓の方々からのご挨拶や、AKAZA会（詳細別掲）立ち上げの紹介、また10名近くの初出席者全員を含む出席者の方々のショートスピーチが、橋本氏の名調子による司会のもと大きな盛り上がりの中で進み、同じ学び舎を巣立った同窓生が互いにテーブル間を大きく移動しながら、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流が行われた。

合唱部OBの駒場悟氏（高32回）のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ、最後に今回初出席の90代応援団長佐久間崇裕氏（高41回）の伸びと張りのある声のリードにより全員による応援歌とエールにて熱気は更にヒートアップし一年後の再開を期し盛會裡に終了した。

column

「AKAZA会（土業の会）」発足

福島高校卒業で在仙の弁護士・公認会計士・税理士・社会保険労務士・行政書士・フィナンシャルプランナーなど専門職のメンバーが発起人の声掛けで集まり「AKAZA会」と命名され15人のメンバーで発足しました。

●福島高校同窓生の専門職の親睦を図り、情報交換とより専門的な交流を行い絆を深める。
●土業を志す福島高校同窓生のバックアップを惜しまない。
●福島高校同窓生の問題解決の手助けをする。
●みやぎ梅苑会の発展に貢献する。

というものであり、会の名称は福高生 同窓生であればピンとくる目覚えのある響き、そして「あかざ」は葉が水鳥の足のような形をしていることから、水鳥のように見えないところでの切磋琢磨を怠らない仕事への想いが込められ命名され、同窓会員が相談しやすくなるよう早速9月17日のみやぎ梅苑会総会で会員にお披露目されました。

殆どのメンバーが総会初出席でしたが、会の発足紹介やメンバー各人のショートスピーチが終わるや否や出席者から大歓迎の拍手とともに早速の初対面とは思えないコミュニケーションが始まり、総会も大いに盛り上がりを見せAKAZA会としても順調なスタートを切りました。今後の進展が期待されます。



「高校入学後にラグビーを始めたのですが、きうかけは？」
中学までサッカーをしていたのでサッカー部も考えていたの

中学まではサッカー部 顧問の励ましで始める

はラグビーのクラブハウスでしばらくの間、選手やスタッフとその家族と共に共同生活を続けました。みんなで食料を持ち寄り、自分たちが頑張ってきたので、自分も安心して会社に出社できました。子どもが小さかったもので、いまでも当時の選手とスタッフにはとても助けていただいたと感謝しています。

ですが、ラグビー部は高校から始めた部員が多く、顧問の佐藤弘樹先生の「頑張れば、頑張った分だけ自分の力になる」という励ましの言葉もあって入部しました。1年が決勝で平工、2年が決勝で平工、キャプテンで臨んだ3年は磐城に準決勝で敗れました。「花園出場」は実現できませんでした。メンバーも部の雰囲気も自由で楽しかったのですが、勉強はあまりしませんでした。ラグビーに思いっきり打ち込んだ3年間でした。

早稲田大学への進学について

現在、福島高校ラグビー部の顧問をしている松井暢彦さんが、私が1年のときの3年生のキャプテンで、1年浪人して早稲田大学に進学し、ラグビー部に所属していたこともあり、その縁も大いにありました。松井さんからは、早大受験のときもラグビー部の雰囲気や、準備すべきこと、入学してからのこと、人間関係など様々なアドバイスをいただきました。身近なところで親身になってお世話していただいたおかげで、進学へのモチベーションが高まって、なんとか合格することができたと思っています。

「早稲田でのラグビーはいかがでしたか？」
3年の秋のシーズン途中からレギュラーに定着することができました。実は1年の時からチャンスをもらっていたのにもかかわらず、そのチャンスをなかなか生かしきれないということが続いていた、悔しい思いもありました。早稲田も当時で部員が140人ぐらいいました。全国から「高校日本代表」クラスのメンバーが集まっています。そこにラグビーでは「無名」高校の一般受験組が競合するわけですが、周囲からの特別な期待やプレッシャーがない分、「やってやろうじゃないか」という思いで日々の練習に励みました。

「花園出場」を果たすため 一日一日を大切に

それはうれしかったですよ。とくに南アフリカ共和国戦の日本の歴史的な勝利は心が打ち震えるほどの感動でした。この活躍がきっかけとなって、ラグビーが一過性のブームではなくさらに盛り上がりつつあることは、ラグビーに携わる者として、とてもありがたいことだと思っています。また早稲田大学でひとつ下だった同世代の五郎丸歩選手や畠山健介選手の代表での活躍がきっかけだったですよ。

「2019年のワールドカップ日本大会では、本拠地の岩手県釜石市がラグビーの試合会場になりますね」

ふるさと福島を含めた東北地方の震災からの復興を、釜石から世界に発信できる良い機会となると思っています。そのときに自分では何ができるのか分かっていませんが、少しでもお役に立てれば、この地でラグビーに取り組みむひとりとしてうれしいことです。そのために「釜石シーウェイブス」がトップリーグに昇格することが大切だと思っています。

「福島高校のOBや後輩の皆さんにメッセージをお願いします」
高校、大学、社会人とラグビーを続けてきて、常に感謝していることがあります。それは



試合の観客席からの熱い声援です。特に「オレも福高だ。頑張れよ！」という掛け声には今でも励まされます。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。最後に松井先生、後輩の皆様へ。昨年は福島高校ラグビー部が7人制の県代表として全国大会に出場した経験が大きな自信と誇りになったと思います。我々が成しえなかった「花園出場」を果たすために、一日一日を大切にしながらも、福高生らしく、明るく楽しく頑張っています。

平成28年度 関東梅苑祭・合同同期会

- 日時：5月27日(金)
【受付】18時～ 【開宴】18時半～
- 会場：東京グリーンパレス
＜千代田区二番町2、麹町駅徒歩1分＞

スペシャルゲスト

時代小説家・春吉省吾さん(高21回卒)
※詳しくはホームページをご覧ください。



昨年の総会の様子

10

寄贈図書紹介(平成27年1月～12月)

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
27.01.30	日本経済がわかる経済学	菊本義治、他	阿部太郎 (福高45回卒)	27.09.14	逆転の読書 読書放浪記	西島健男	西島健男
27.01.30	私にとっての加藤周一	白沙会	阿部太郎 (福高45回卒)	27.09.14	zero	広田修	広田修 (福高51回卒)
27.01.30	1からの経済学	中谷武、中村保	阿部太郎 (福高45回卒)	27.09.14	モヤモヤした心の根っこに希望の針はさりましたか?	内田玲子	内田玲子事務局
27.01.30	在日外国人と多文化共生	佐竹真明	阿部太郎 (福高45回卒)	27.09.14	筑波大学 by AERA		鈴木浩一
27.01.30	問いをつくるスパイラル	日本図書館協会	福島県高等学校司書研修会	27.09.14	筑波大学新聞で読む筑波大学の40年	福島直樹、伊藤純郎	鈴木浩一
27.01.30	ビブリオバトル入門	ビブリオバトル普及委員会	福島県高等学校司書研修会	27.09.14	プロフェッショナル英和辞典スピードテラ	堀内克明、他	鈴木浩一
27.02.27	平将門 上	鎌門冬二	福高図書部	27.09.16	言葉が独断を生む 東北大学ひと語録	阿見孝雄	阿見孝雄 (福高16回卒)
27.02.27	平将門 下	鎌門冬二	福高図書部	27.09.16	言葉に心の声を聞く	阿部宏	東北大学大学院
27.03.20	エデン	近藤史恵	福高職員	27.09.16	桃天と風流と	菊地辰幸	同院医務
27.03.20	甘い水	東直子	福高職員	27.09.16	ふくしま道徳教育資料集 全3集	福島県教育委員会	福島県教育委員会
27.03.20	マボロシの鳥	太田光	福高職員	27.09.16	ふくしま道徳教育資料集 第3集	福島県教育庁義務教育課	福島県教育委員会
27.03.20	ヨーロッパの歴史 1	草光俊雄、甚野尚志	甚野尚志 (福高28回卒)	27.10.01	アリスのままで	リサ・ジェノヴァ	図書館図書実習
27.03.20	目指せMIT	日本MIT	日本MIT	27.10.01	給食のおにいさん	遠藤彩見	図書館図書実習
27.05.28	海洋白書 2015	海洋政策研究財団	海洋政策研究財団	27.10.01	給食のおにいさん進級	遠藤彩見	図書館図書実習
27.05.28	オーロラの謎	佐藤夏雄、門倉昭	国立極地研究所	27.10.01	給食のおにいさん卒業	遠藤彩見	図書館図書実習
27.05.28	冬の櫛 上	春吉省吾	佐藤祥一 (福高21回卒)	27.10.01	井天の夢	矢野隆	図書館図書実習
27.05.28	冬の櫛 下	春吉省吾	佐藤祥一 (福高21回卒)	27.10.01	世界泥棒	板井謙也	図書館図書実習
27.05.28	脳は楽観的に考える	ターリ・シャーロット	福高職員	27.11.26	B型肝炎	奥泉尚洋	全国B型肝炎訴訟原告団
27.05.28	時の番人	ミッチ・アルボム	福高職員	27.11.26	南からの世界史	佐々木寛	佐々木寛
27.05.28	ホケッ!	小野寺史宣	福高職員	27.11.26	熱なき光	星野剛	星野剛
27.06.22	やさしい政治家	宇恵一郎	自民党国会福岡会	27.11.26	入試に役立つ小論文のポイント	聖学院大学	聖学院大学
27.06.22	文化理解のキーワード	東北大学大学院文学研究科	東北大学大学院文学研究科	27.11.26	世界が広がる「小さな窓」の101冊	福島県発案部教育復興ビジョン推進協議会	福島県発案部教育復興ビジョン推進協議会
27.06.22	カタカナノモチひらがなのこころ	経月祥	経月祥	27.12.28	自治体職員のためのようこそ地方自治法	板垣勝彦	板垣勝彦 (福高51回卒)
27.06.23	がんばらない、他9冊	鎌田貢	文化講演会	27.12.28	夏の燐火 上	春吉省吾	佐藤祥一 (福高21回卒)
27.06.23	集英社文庫100冊		文化講演会	27.12.28	夏の燐火 下	春吉省吾	佐藤祥一 (福高21回卒)
27.08.06	福島成蹊百年史	福島成蹊学園	福島成蹊高等学校	27.12.28	経営の嘘	佐藤祥一	佐藤祥一 (福高21回卒)
27.09.14	Something Nice	金子みすゞ	金子みすゞ記念館	27.12.28	アメリカの高校生が学ぶ経済学	グーリー E. グレイトン	大和証券
27.09.14	七五調源氏物語	中村博	中村博	27.12.28	どがんね 古賀常次郎評伝	佐佐生	佐賀県更生保護協会
27.09.14	資本制経済の基本法則	柳田洋吉	柳田洋吉				
27.09.14	社会制経済の原理	柳田洋吉	柳田洋吉				
27.09.14	アンネ・フランク・ハウス	アンネ・フランク・ハウス	アンネ・フランク財団				

(その他多数の寄贈図書をいただきました)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成27年度 同窓会役員

会長	渡辺 健寿	高17回
副会長	鈴木 征夫	高12回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	二階堂 晋一	高16回
副会長	久米 允孝	高16回
副会長	片平 憲市	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	藤田 登	高12回
常任理事	磯貝 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 達司	高15回
常任理事	佐藤 守	高16回
常任理事	富田 健一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	歌川 和夫	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回
監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回

理事	渡辺 博実	高17回
理事	横山 純	高17回
理事	勢島 昇	高18回
理事	斎藤 高紀	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	伊藤 幹夫	高20回
理事	網代 智雄	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	佐々木 孝司	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回
理事	曾野 日出雄	高23回
理事	加藤 典義	高23回
理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	穂積 勇男	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	渡邊 誠	高25回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回

理事	土屋 敦雄	高26回
理事	丹治 正博	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	加藤 勇治	高29回
理事	金子 弘保	高29回
理事	土田 淳	高29回
理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	太田 英晴	高31回
理事	樋口 幸一	高32回
理事	藤野 貴	高32回
理事	藤木 雄司	高33回
理事	古成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	手塚 敏	高34回
理事	鈴木 宏幸	高36回
理事	岡久津 隆二	高37回
理事	黒森 隆一	高37回
理事	三浦 康伸	高39回
理事	日下 直隆	高39回
理事	引地 孝之	高44回
理事	吉田 大樹	高45回

平成27年度 同窓会事務局員

田中 訓雄	高22回
後藤 史郎	高23回
須藤 竜	高26回
朽木 隆	高27回
大橋 良一	高27回
今関 達也	高28回
国分 聡	高33回
西山 伸一	高35回
佐藤 富孝	高36回
丹治 昇	高36回
渡邊 美嗣	高36回
佐藤 雅夫	高37回
本多 恒弥	高40回
田中 幹大	高46回
松井 暢郎	高53回
徳原 麻里菜	高60回
橋本 健一	高60回

同窓会事務局(福島高校内)

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東山二丁目22-6
TEL.022-275-2887 (落合 敏伸)

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358 (渡邊 誠)
<http://www.kantobaienkaie.ne.jp/index.html>